

ガーナでそろばんプロジェクト55号(2016年 9月2日)

★★ 出会いに感謝。これからもどうぞよろしくお願いします ★★

今夏も一時帰国の際、小中学校での授業やスプートニクでの活動報告やMPO法人HIROYA基金主催の講演会、そして、トモエそろばん社屋での報告会と数多くの報告会や講演会の機会を頂くことが出来、関係者の皆様には、心より御礼申し上げます。小中学校の授業では、ガーナから日本を見て感じた命の尊さの話をして、講演会や報告会では“支援”という言葉に悩み、誰に対しての支援なのか？自問自答する中で自分の答えを話させていただきました。村で6年近く活動している中、自分の行いたいものに対して、学校の求める支援は大きく異なってきました。私は純粋に子どもたちに、そろばんを教え、工作手芸を教えたい。だけでも学校側としては、そうしたものより、金銭建物の支援を強く要求してくる。この要求が段々と強くなってきた2年近く、本当に“支援”という言葉“ボランティア”という言葉が嫌いになり悩みました。そうして悩んで出た“誰に対しての支援なのか？”その答えとは・・・前号で報告した雨に濡れながら、そろばん教室に来た子どもたちの話をしました。それが、私の悩んでいたものに対する答えでした。“子どもたちが学びたい。トシコからそろばんを学びたい”その思いで来ている。私は“必要とされなくなった時が潮時”と常に思っています。私を必要としているのは、学びたい気持ちを持っている子どもたち。地位名声を必要としている人たちのための支援ではないのだというのが、私の出した“誰のための支援なのか？”の答えです。こうした話をする中、質疑応答で“子どもたちがそろばんを続けることによって将来はどんな将来になるか？”という質問を、それぞれ別の会場で受けました、私は“ガーナ経済は決して良いものでなく、高校卒業しても

大学を出ても就職口は無い状態で、そろばんをやっていたからといい、良い職に就けられるわけではない。けれども必ず言えるのは、絶対に役に立つということ”と応えました。また自分自身の目標として、ガーナのある程度の裕福層が通う学校では現在UCMASが進出しているけれども、私はガーナでそろばんのパイオニア、先駆者になりたいと伝えました。貧しい村の子どもだからこそ、そろばんをやることで生きる糧、生きていくうえでの武器にしてほしいと願うからです。

南アフリカ出身のネルソンマンデラさんの言葉で“教育とは世界を変えるために用いることができる、もっとも強力な武器である”があります。自分一人の力では、他人もガーナ経済が変わるといえることにはないでしょう。しかし、勉強することによって、自分も変われる、自分の未来も変われると子どもたちに伝えていきたいと報告会講演会をする中で、自分の言葉で話していくうちに、そう思うようになりました。そう思う中でも“いい仕事に就けるわけではない”と決めつけてしまっています。ガーナに戻って来て、一週間後、日本人女子と会食する中、彼女の下で働いていたガーナ男子の話の話を聞き“チャンスは自分で掴み、努力することが大切なんだ”と改めて気づかされたものがありました。そのガーナ男子は、貧しい家で育ちますが、痩せているわけではなく太っていて、家族から太っている人間は勉強なんかしないでいいと言われ、牛飼いの仕事をするよう云いつけられます。しかし、どうしても勉強がしたいという思いから、学校に助けを求め、学校から、優秀な生徒であったら授業料は免除してもいいと言われ、一生懸命勉強して成績優秀者でい続け、大学まで出たというものでした。牛飼いだっただ少年が勉強をしたいという思いから取った行動で将来を変えることが出来たのです。チャンスは落ちていくものでもなければ与えられるものでもなく、自ら掴んでいくものです。私が“この村は貧しいから、いい仕事なんてないよ”と決めつけてはならないのは子ども自身なのです。7月8月と良い出会いに恵まれ、たくさんの素晴らしい話を聞いて、とても充実していました。これからの活動に活かしていきます。

報告者 TOSHIKO

協賛

トモエそろばん様